

第13回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年1月13日（木）午前9時00分～10時00分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、榎本 敦、中村美和、浜田信行、橋本 周、秋吉優史、川島恒憲、笠井 篤、小田啓二、阪間 稔、五十嵐悠
4. 紹介資料
資料1 エックス線装置とそれらによる被ばくの特徴（非破壊検査関係）
資料2 エックス線装置とそれらによる被ばくの特徴（大学・教育現場）
資料3 エックス線装置とそれらによる被ばくの特徴（学校教育現場）
5. 議事
 - (1) 意見発表
資料1に基づき、小田委員よりエックス線装置とそれらによる被ばくの特徴について経過報告書案に関する紹介があった。
 - 電離則・安衛法の観点で非破壊検査装置（工業用エックス線発生装置）について法令上の定義、装置の分類、作業時の被ばく防止の観点、安全管理体制上の課題等の記載を進めることについて紹介があった。また、学会への要望として、法規制にカバーされていないケース及び関連事項への検討について提案があった。
 - 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ 工業用エックス線装置について網羅的に記載がある点評価できる。医療用エックス線装置についても必要に応じて新たな節を別途設ける等検討すべきではないか、の意見があった。事務局より、エックス線装置の過剰被ばく事故に医療現場での事例もあるため、最終報告書には反映されることが望ましいとの提案があった。
 - ✓ エックス線作業主任者の役割、権限について、放射性同位元素等の規制に関する法律で定義されるRI主任者との違いについて、その歴史や現状も踏まえて、現場でのあり方について整理、検討すべきとの提案があった。
 - ✓ エックス線装置を運用する事業主の意識の違いについて、事業所の規模に応じた違いにも考慮をして整理することが望ましいとの意見があった。
資料2に基づき、榎本委員よりエックス線装置とそれらによる被ばくの特徴について（大学・教育機関）、放射線トラブル事例の背景・要因に関する紹介があった。
 - 教育機関で発生したヒヤリハット事例を、安全衛生業務の観点から再発防止策を講じた事例として経過報告書に記載し、併せてヒヤリハット事例より抽出された教訓を紹介するとの意見表明があった。
 - 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ 教育・研究現場におけるヒヤリハット事例に関し、「あえて型」の人的ミスに関し、このタイプの過誤を回避するためにハードウェア面での対策が重要である点の指摘があった。
資料3に基づき、秋吉委員よりエックス線装置とそれらによる被ばくの特徴（学校教育現場における事例）について紹介があった。
 - 学校教育現場における事故事例の検討から、様々な教訓が提示されている点につ

いて指摘があった。

- 学校教育現場で使用されるクルックス管について、エックス線装置の定義から規制の対象外かどうか不明確になっている点について改めて指摘があった。
- 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ 学校教育現場について令和 3 年度より新学習指導要領に基づく授業が全面実施されているが現場の状況に変化があったかについて質問があり、現時点では報告事例がないとの回答があった。
 - ✓ 低エネルギーエックス線の過剰被ばくによる事故時の線量評価について、実効線量の推定のみならず、被ばく者の被ばく線量評価が重要である点の指摘があった。

(2) その他

- WGメンバーに配布していた第12回WGの議事要旨を確認し、承認を得た。
- 第14回は2022年2月2日(水)午前9時00分～10時00分の開催を予定している。
- 経過報告書原稿の提出について改めて周知、依頼をした。

以上